

シンガポール国立大学留学報告書

所属	横浜市立大学医学部医学科6年
学籍番号	133040
氏名	末石結衣

概要	期間	2018/7/2~2018/7/13
	場所	シンガポール国立大学
	参加プログラム	Experiential Simulation Programme

詳細	<p>(1) BLS, ACLS 午前中は講義でBCL, ACLSについて学び、午後に基本的なBLS, ACLSの流れを繰り返し練習した。特にACLSの場合は、異なるメンバーのグループでの練習や同じグループ内でもリーダーを変えた練習を症例を変えて行われ、より実践に即した内容であった。</p> <p>(2) Basic & Advanced Clinical Procedural Simulation 腰椎穿刺、胸腔ドレーンの挿入などの手技を学んだ。学生が小グループに分かれ、各セクションを一定時間ごとに回っていくスタンプラリー方式の実習だった。それぞれのセクションでは導入の小講義と実践のための時間がセットになっていて、講義と実践の間に生徒が積極的に質問している様子が見られた。</p> <p>(3) Computer Based Simulation PCのソフトを用いて24症例について自分で診断、全身管理、治療を行うシミュレーションをした。簡単な患者の基本情報を与えられているほかは問診、検査のオーダーなどによりすべて自分で情報を得る必要がある。午後は教師による解説が行われた。</p> <p>(4) Pediatric & Airway Simulation 様々な気道確保困難症例や小児の症例にチームで対処した。</p> <p>(5) Team STEPPS 様々なアクシデントにチームとしてどう防ぐかというテーマで実習を行った。輸血剤の取り違いや輸液チューブの接続ミスなど、患者に「異変」がある状態でチームとしてどう対処するかを学んだ。</p> <p>(6) Crisis Simulation (体調不良のため欠席)</p> <p>(7) Professionalism in Action NUSの生徒が模擬患者との面接練習をしているところを見学した。LGBTの患者やDVを受けている患者など、より慎重な対応が求められる症例を通して医師としてのプロフェッショナルリズムを学んだ。</p>
感想	<p>熱意にあふれた先生、学生と講義や実習を共にできて大変刺激になりました。生徒を指導する先生の数がとても多く、各チーム同時並行で実習を行うので時間を無駄にせず多くの練習ができたと感じました。またシンガポールでは日本よりも学んだ知識を実際に臨床の場で活かす練習を多く行っていると感じました。シミュレーション実習の場では何をしていたかわからずあたふたするような生徒は一人もおらず、それぞれがそれぞれでできることを探していました。私も日本で臨床をより意識した勉強をしたいと思いました。</p>